

原 著（第33回徳島医学会賞受賞論文）

徳島市医師会の女性医師支援事業

坂 東 智 子¹⁾, 赤 池 雅 史²⁾, 鶴 尾 美 穂¹⁾, 石 本 寛 子³⁾, 宮 内 和 瑞 子¹⁾,
坂 東 良 美⁴⁾, 生 島 葉 子⁵⁾, 宮 恵 子¹⁾, 瀧 雅 子⁶⁾, 原 田 和 代¹⁾,
角 瀬 裕 子¹⁾, 豊 崎 纏¹⁾

¹⁾徳島市医師会

²⁾徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部医療教育学分野

³⁾徳島県

⁴⁾徳島大学病院病理部

⁵⁾徳島市民病院

⁶⁾徳島県立中央病院

(平成26年10月3日受付) (平成26年11月4日受理)

近年、徳島県において女性医師の割合は増加してきており、特に若い世代の増加が著しく全国平均を上回っている。しかし、医師の勤務環境は厳しい状況のままであり、出産育児を経験する女性医師には支援が必要である。そのため、徳島市医師会では平成20年度より女性医師支援事業に取り組んできた。まず、勤務継続に必要な情報を提供するためにホームページ「Net Joy」を開設した。その中で、勤務や保育等に関する情報を掲示板方式にて提供した。さらに、研修病院における勤務環境及び支援体制についてアンケートを実施し、冊子「女性医師のSupport Note」を作成、ホームページ「Net Joy」にも掲載している。平成23年度からは、後期研修以降の生涯教育として、実習形式の超音波セミナーを徳島大学病院超音波センター及び徳島市医師会館にて6回開催した。今年度からは、研修内容の充実と継続可能なシステムにするために取り組んでいる。

はじめに

平成12年に医師国家試験合格者において女性の割合が30.6%と3割を超え、その後も30%台である。よって、全国的に女性医師数は増加しており、平成14年に41,139人と総医師数の15%を超え、平成24年には59,641人と2割近くになっている¹⁾。

徳島県においても平成24年度医療施設従事医師数2,299人中499人が女性医師であり、その割合は全国平均19.6%を上回る21.7%である。特に30歳代以下は約3割が女性医師である(図1)。徳島市医師会員は徳島大学病院及び臨床研修医が含まれないため20歳代は少ないが、平成26年6月において医師会員635人中147人が女性であり、割合は23.1%となっている。特に30歳代は男女同数である(図2)。

この女性医師の増加に伴い、医療環境の問題を改善するための取り組みが、日本医師会や都道府県医師会にお

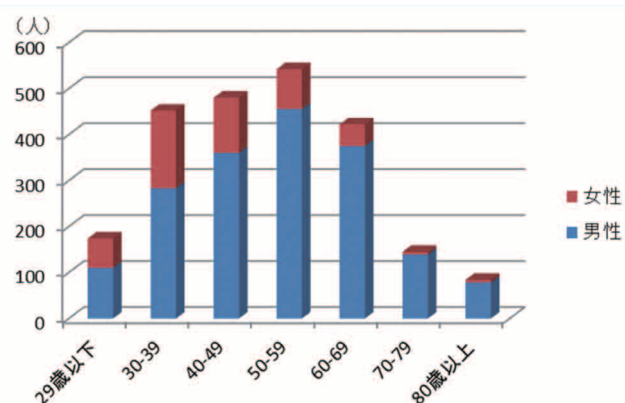


図1 平成24年度 徳島県 年齢別・性別 医師の状況(厚労省医師・歯科医師・薬剤師調査¹⁾より引用)

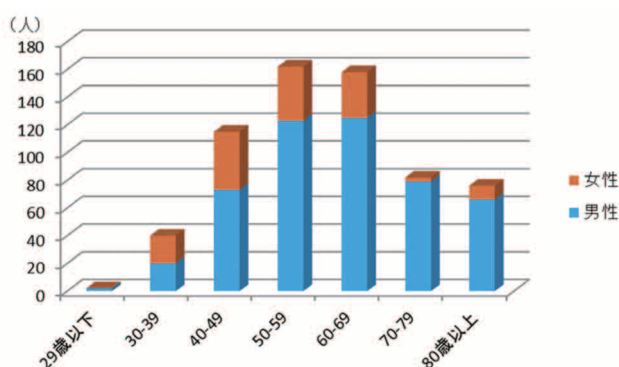


図2 徳島市医師会 年齢別・性別 医師の状況 平成26年6月現在

いてもなされてきた。

日本医師会においては、平成10年8月に「女性会員懇談会」を発足させたのが最初であり、平成13年9月には「女性会員フォーラム」が開催されている。平成17年7月に第1回男女共同参画フォーラムが開催されて以後、毎年1回同フォーラムが開かれ、実効ある就業支援策等について諮問答申を提出している。また、平成18年度からは厚生労働省の委託事業として医師再就業支援事業（女性医師バンク）が開始され、平成21年度からは女性医師支援センター事業として継続されている²⁾。

徳島県においては、平成13年夏の第223回徳島医学会で「医療界における男女同権」についてのシンポジウムが開催され、女性医師の問題が提起された³⁾。平成14年6月には徳島県医師会に女性医師部会が設立され、講演会の開催・徳島大学病院の相談外来への出務・徳島県男女共同参画プラザでの健康相談への出務等の活発な活動が平成19年までなされた⁴⁾。平成19年2月に開催された第234回徳島医学会のシンポジウム「徳島大学の医学教育を考える」の中で、福島泰江部会理事がシンポジストとして「女性医師と生涯教育」について発言され、徳島大学では平成元年から16年までの卒業生の内女性の約18%が臨床に携わっていない状況であり、女性医師の就労には本人のモチベーションの維持・身近な周囲の理解と協力・社会的基盤の整備と活用が必要であると述べている⁵⁾。平成20年度からは、徳島県医師会男女共同参画委員会において「医学生・研修医をサポートするための会」及び「勤務環境整備に関する病院長、病院開設者、管理者等への講習会」が開催されている。さらに、徳島県医師会保育支援委員会では保育所利用補助、講演会におけるマミールーム設置等の保育支援事業が行われている。

徳島市医師会においては平成16年3月、増加しつつある女性医師のライフステージの支援を目的として女性医師プロジェクト委員会が新設された。平成20年より勤務継続に必要な情報提供などの取り組みが開始され、平成23年からは徳島大学の協力のもと実習式生涯教育を開催している。本研究では、このような地域医療に従事する女性医師を支援するための取り組みについて、その必要性と発展性について検討した。

方 法

徳島市医師会女性医師プロジェクト委員会において、日本医師会員のみならず医師会員以外の女性医師にもキャリア継続のための支援をすることを目的に、以下の事業を実施した。

- 平成20年6月、女性医師の勤務継続に必要な情報を提供するために、ホームページ「Net Joy」を開設した。<http://www.tokushimashi-med.or.jp/netjoy/index.htm>
- 平成22年6月、徳島県内研修病院を対象に勤務体制・休暇制度に関するアンケート及び徳島県内院内保育所を対象に保育情報に関するアンケートを実施し、平成23年2月15日、冊子「女性医師のSupport Note」⁶⁾を発刊した。ホームページ「Net Joy」に同内容を掲載している。また、徳島県医師会作成女性医師支援BOOK「アンドゥートロワ」(平成24年1月15日発刊)⁷⁾に協力した。
- 平成23年より実習式生涯教育に取り組むため、平成23年8月超音波セミナーに関するアンケートを徳島市医師会員対象に実施し、平成23年11月より6回超音波セミナーを開催した。そして、平成26年6月キャリアサポートセミナーに関するアンケートを実施し、開催継続について検討した。

結 果

- ホームページ「Net Joy」は掲示板方式にて作成し、登録会員は自由に書き込みが可能である。徳島市医師会員に限定していないため医師会員以外の登録及び男性医師の登録もあった。掲示板の内容は『仕事や進路について』、『育児支援情報』、『趣味の部屋』である。『仕事や進路について』では講演会やセミナーの案内や仕事に必要な最新情報を、『育児支援情報』では利

用の多い認可外保育所・民間学童保育に関する情報も記載されている。『趣味の部屋』では、一息つけるような内容として、レストランやスポーツ、季節に関することなどが書き込まれている。

2. 冊子及びホームページ内の「女性医師の Support Note」には、研修病院、専門医研修施設、院内保育所、病児保育、学童保育、介護情報、家政婦、家事代行サービス、ベビーシッター、相談機関の項目がある。研修病院に関しては勤務体制・休暇制度・勤務医支援制度について掲載されている。このことより研修病院の院内保育所(24時間体制を含む)の増加とベビーシッター事業の充実がわかる。
3. キャリア継続のための研修に関して、専門医研修までは徳島大学病院キャリア形成支援センターや徳島県地域医療支援センターの支援においてなされており、シミュレーション教育、チーム医療教育等充実した内容である。しかし、その後の生涯教育は、講演会形式のものが日本医師会、地域医師会においても多く開催されているが、基本的実技的な研修は特に地域では少ない状況である。再研修を希望される女性医師のみならず、初期治療や一次・二次救急などを担う医師にとって実技研修も必要と考え、徳島市医師会では利用頻度の多い超音波セミナーを企画した。

平成23年8月、超音波セミナーに関するアンケートを徳島市医師会会員対象に実施し、47名の参加希望者から回答を得た。年齢は50歳代が一番多かったが、30歳代40歳代の参加希望者も多数いた。部位では腹部・心血管が各々36名と最も多く、次に甲状腺30名、乳腺15名であっ

た(図3)。内容としては基本手技が最も多く次に救急時であった。

この結果に基づき、徳島大学病院超音波センター、医療教育開発センターにご協力いただいて、平成23年11月から平成25年10月まで6回ライブデモ及びハンズオンの超音波セミナーを開催した(表1)。ハンズオンセミナーには、女性医師14名を含む29名が参加した。その中で3名は他科から内科に転科した女性医師であり、基本手技からの研修は超音波研修の機会があまりなかった医師にとっても役立つ内容であった。

今年度はセミナーの検証と今後の継続充実のために、再度徳島市医師会会員対象に「キャリアサポートセミナー」に関するアンケートを実施し、31名から回答を得た。年齢は前回と同様に幅広い年代から回答があるが、40歳代までの割合が増えている。参加された方は、内容はよかったとの回答だった。今後の参加希望者は25名であった。研修内容では超音波セミナーが最も多く27名で、エコーガイド下CV、外傷、内視鏡の希望者も10名近くいた(図4)。

この結果をもとに、今年度キャリアサポートセミナー

年齢	人数	部位	人数
30歳代	5	腹部	36
40歳代	11	心血管	36
50歳代	16	甲状腺	30
60歳代	11	乳腺	15
70歳代以上	4	その他	1

図3 超音波セミナーに関するアンケート結果(平成23年8月 発送数620名 回答数47名)

表1 徳島市医師会超音波セミナー
生涯教育委員会女性医師プロジェクト委員会共催

	演題	年月日	場所
第1回	腹部エコー、頸動脈エコー&心エコー ライブデモンストレーション	平成23年11月25日	徳島市医師会館
第2回	腹部、心、頸動脈 ハンズオンセミナー	平成24年1月19日	徳島大学病院 超音波センター
第3回	迅速簡易超音波検査法(FAST)・エコーガイド下中心静脈穿刺	平成24年7月18日	徳島大学病院 スキルス・ラボ
第4回	胆道系、膵臓の見方のコツ ライブデモンストレーション～日常臨床でよく見る症例、まれにしか診ないけれども見落とすと怖い症例について～	平成24年11月30日	徳島市医師会館
第5回	エコー検査を用いた深部静脈血栓症と肺塞栓症の診断法 ライブデモンストレーション	平成25年9月26日	徳島市医師会館
第6回	エコー検査を用いた深部静脈血栓症と肺塞栓症の診断法 ハンズオンセミナー	平成25年10月17日	徳島大学病院 超音波センター

年齢	人数
30歳代	4
40歳代	9
50歳代	10
60歳代	5
70歳代以上	3
徳島市医師会が開催しました超音波セミナーに参加したことはありますか？	
(9人)	ある
(22人)	ない
あると答えた方、内容はどうでしたか？	
(9人)	よい
(0人)	改善してほしい
実習式のセミナーを計画しておりますが、参加を希望されますか？	
(25人)	希望する
(6人)	希望しない
セミナーを継続する場合、以下の研修内容で必要と思われるものに○印をご記入ください。(複数回答可)	
(27人)	超音波セミナー
(9人)	CV(中心静脈穿刺)エコーガイド下
(10人)	消化管内視鏡(上部)
(9人)	気管挿管
(11人)	外傷セミナー
(5人)	その他
(2人)	無回答

図4 キャリアサポートセミナーに関するアンケート結果(平成26年6月 発送数635名 回答数31名)

を計画した。

- ・セミナーの開催を継続する。
- ・回数は年1～2回とし、3年で1コースとする。
- ・内容として超音波セミナーに加えて、内視鏡セミナー及び外傷セミナーを開催する。

考 察

医師の勤務環境は、近年改善に向けて提言や取り組みもなされているが、依然長時間労働、時間外勤務が多い状況で、医師の自らの研鑽目的や医師としての使命感に頼って業務をこなしているところがある⁸⁾。このため、出産・育児・介護を担う女性医師にとっては、夜勤を伴う常勤医としての勤務継続は困難であり、さまざまな支援が必要である。まず勤務環境の改善としては、女性医師のみならずすべての勤務医が対象であるが、当直システムの見直し、時間外勤務の削減、チーム診療体制、短時間正規雇用等の勤務形態の多様化が提唱されてきた。次に育児支援の整備としては、院内保育(24時間体制)、病児保育、学童保育、ベビーシッター制度等が整備されつつある。そして、復職支援、キャリア形成支援としては、大学や研修病院において復職研修支援事業、再教育センター等が設置されている。

このような支援情報を必要とする女性医師に早く伝えるには、ITの活用が望ましいと考え、徳島市医師会ではホームページ「Net Joy」を開設した。「女性医師のSupport Note」の内容も加えており、徳島で仕事をするために必要な情報が多く掲載されている。これらの情

報から最近では、徳島大学病院・徳島県立中央病院・徳島赤十字病院等主要な研修病院において、育児支援に関して積極的な取り組みがなされており、院内保育所の新設や夜間保育可能施設の増加がみられている。市内では病児保育可能なクリニックも増えたこと、さらに徳島県医師会の保育支援事業⁷⁾・徳島大学AWAサポートセンターのベビーシッター等の子育て支援、研究支援⁹⁾から育児支援はこの数年間でかなり充実したことがわかる。これらの情報をまとめて得ることは、日々仕事で忙しく欲しい情報を得ることが困難な医師や今後復職を考えている医師、県外から赴任して徳島の情報を必要とする医師達に有用なだけでなく、他の医療人にとっても便利と思われる。今後は介護に関する情報の充実に努めることも求められる。

キャリア継続に関して復職支援事業としては、徳島県では徳島大学と徳島県立中央病院が研修を行っている。学生・研修医(前期・後期研修医)に対するキャリア支援は、徳島大学医学部教育支援センター、卒後臨床研修センター、キャリア形成支援センター、徳島県地域医療支援センターにおいて非常に充実したプログラムがある(図5)。

研修医以降の生涯研修としては、日本医師会の生涯教育制度として日医e-ラーニング、徳島県及び徳島市医師会主催または共催の講演会もあるが、多くは講演会といった座学式のもので、基本的実技形式の研修は少ない。東京女子医科大学の女性医師再教育センターでは、大学を問わず研修希望の女性医師を対象としている。その内容として教育・学習支援プログラムe-ラーニングやハンズオンワークショップがあるが、ハンズオンは東京女子医科大学での開催である^{10,11)}。また、岡山大学では医療人キャリアセンターMUSCATを設立し、復職のためのシミュレーショントレーニング・キャリアアップセミナー・外部研修への派遣等積極的な活動をしているが、

キャリア形成

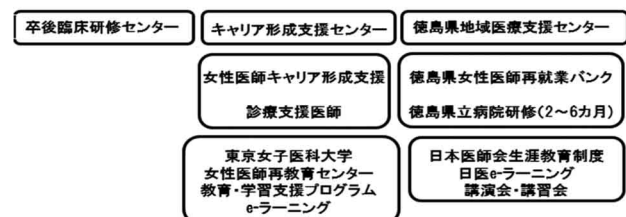


図5 キャリア形成支援組織

対象は岡山県下の医療人である¹²⁾。そのため、徳島県内の研修病院以外の勤務医は、超音波や内視鏡研修に関しては、県外の講習会に参加したり、個人的に指導医に依頼する状況であった。忙しい開業医や勤務医にとっては時間的制約もあり参加しにくいこともあったと思われる。

よって、徳島市医師会が開催した基本的な内容から取り組む実習式超音波セミナーは、実技研修を受ける機会の少なかった医師や転科後の期間が短い女性医師にとって、臨床で活用できる研修であった。今後、さらに徳島大学の協力のもとキャリアサポートセミナーを開催することは、女性医師のみならず参加された医師全体のキャリアアップになると考えている。また、医師会が教育機関である徳島大学と連携して生涯教育に取り組むことは、地域医療の向上に繋がるものと思われる。今後の課題としてセミナーの内容の充実と周知、徳島市医師会員以外の希望者への対処を検討していく必要がある。

結 語

徳島市医師会は、女性医師支援のためにホームページを作成し、キャリア継続に必要な情報提供をしている。平成23年度より超音波セミナーを開催しているが、キャリアサポートセミナーとして継続して開催することとなった。このことは、生涯教育として医師のキャリアアップと医療の向上に役立つと考える。

謝 辞

徳島市医師会の女性医師支援事業のためにご協力いただいた多くの先生方に心より御礼申し上げます。また、キャリアサポートセミナーに関してご指導ご支援いただいた徳島大学病院超音波センター及び徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部医療教育開発センターの諸

先生方に深謝申し上げます。

文 献

- 1) 厚生労働省 医師・歯科医師・薬剤師調査 2012年
- 2) 日本医師会男女共同参画委員会. 平成24・25年度男女共同参画委員会答申 男女共同参画のさらなる推進のために 平成26年2月
- 3) 桜井えつ, 石本寛子, 西谷敬子, 森出直子 他: 医療における男女同権ー21世紀, 女性医師の立場からの提言ー. 四国医誌, 57: 181-217, 2001
- 4) 徳島県医師会女性医師部会. 徳島県医師会女性医師部会の活動記録 平成14年6月23日~平成20年3月31日
- 5) 福島泰江: 女性医師と生涯教育. 四国医誌, 63: 23-26, 2007
- 6) 徳島市医師会女性医師プロジェクト委員会. 女性医師の Support Note 平成23年2月15日
- 7) 徳島県医師会. 女性医師支援 BOOK un deux trois ~アン ドゥ トロワ~ 平成24年1月23日
- 8) 岡山県医師会. 特集: 平成25年度 全国医師会勤務医部会連絡協議会 メインテーマ『勤務医の実態とその環境改善ー全医師の協働にむけて』. Good Doctor, 8: 1-4, 2013
- 9) 徳島大学 AWA サポートセンター. あわさぼ NEWS Vol. 1-4, 2011-2013
- 10) 東京女子医科大学男女共同参画推進局女性医師再教育センター. 2011年度活動報告書 2012年3月
- 11) Kawakami Y: Support system for women doctors. JMAJ, 54: 136-138, 2011
- 12) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 医療人キャリアセンター MUSCAT. 平成23年度・24年度活動報告書

Support System for Women Doctors by Tokushima City Medical Association

Tomoko Bando¹⁾, Masashi Akaïke²⁾, Miho Tsuruo¹⁾, Hiroko Ishimoto³⁾, Kazuko Miyauchi¹⁾, Yoshimi Bando⁴⁾, Youko Ikushima⁵⁾, Keiko Miya¹⁾, Masako Taki⁶⁾, Kazuyo Harada¹⁾, Yuuko Sumise¹⁾, and Matome Toyosaki¹⁾

¹⁾*Tokushima City Medical Association, Tokushima, Japan*

²⁾*Department of Medical Education, Institute of Health Biosciences, the University of Tokushima Graduate School, Tokushima, Japan*

³⁾*Tokushima Prefectural Government, Tokushima, Japan*

⁴⁾*Department of Pathology, Tokushima University Hospital, Tokushima, Japan*

⁵⁾*Tokushima Municipal Hospital, Tokushima, Japan*

⁶⁾*Tokushima Prefectural Central Hospital, Tokushima, Japan*

SUMMARY

In recent years, an increase in the ratio of female physicians in Tokushima Prefecture, with a particularly notable rise among younger generations that has exceeded the national average, has been observed. However, these physicians continue to face severe working environments, and support measures are required for female physicians during childbirth and in the early stages of parenthood. To this end, the Tokushima City Medical Association has been involved in initiatives to support female physicians since 2008. First, we developed “Net Joy,” a website that provides the information necessary for female physicians to continue their clinical work through a bulletin board system that offers information on topics such as employment and childcare. Furthermore, we have administered questionnaire surveys related to working environments and support systems in clinical training hospitals and compiled a booklet entitled *Support Notebook for Female Physicians* that is available on the Net Joy website. Since 2011, as post-residency training in ultrasound techniques, we have held six separate practical training seminars at the Tokushima University Hospital Ultrasound Examination Center and the Tokushima City Medical Association Hall. Since 2014, we have been involved in efforts to enhance its training content and develop it into a long-term program.

Key words : female physicians, website, practical training seminar